

2017 春季生活闘争アピール

底上げに向けた今後の取り組みについて

～ 賃上げをすべての働く者へ ～

本日、2017 春季生活闘争における最初のヤマ場を迎えた。

今次闘争では、「底上げ春闘 2 年目」として、月例賃金の引き上げにこだわり、賃上げの流れを継続させることを主張している。経営側は、世界的な政治・経済の不透明感がもたらす先行き懸念や 3 年連続の賃上げによる賃金水準の上昇、物価水準などを理由に、賃上げに対しては最後まで慎重かつ厳しい態度を取り、交渉は難航した。しかし組合は、「経済の自律的成長」実現に向けた労使の社会的責任や人への投資が企業の存続と成長に寄与することを訴え、賃金の引き上げを求め、粘り強く交渉を行ってきた。結果、本日現在 4 年連続して賃上げの回答を引き出している。回答水準にばらつきはあるものの、4 年間賃上げを積み上げた意義は重いものがある。交渉継続中の組合にエールを送り、また追い風となる成果である。

我々は、すべての働く者の処遇の「底上げ・底支え」「格差是正」の実現をめざしている。そのためには、本日までに示された回答内容を、続く中堅・中小組合はもとより、未組織を含めたすべての働く者の賃金引き上げに確実に波及させなければならない。第 5 回戦術委員会確認事項を踏まえ、以下の事項に取り組むことを要請する。

記

1. 先行する組合が引き出した回答内容を賃上げのうねりとしてあまねく波及させるために、交渉中の組合は 3 月決着に向けて全力を尽くす。また、非正規労働者の雇用の安定と処遇の改善に向けて、正規・非正規の同時決着をめざす。
2. 構成組織は、交渉中の単組に対する訪問オルグなど、要求趣旨に沿った回答引き出しに向け全力を尽くす。大手組合は、グループ・関連会社組合の支援を強化する。
3. 地方連合会は、地場共闘のもとで構成組織の地方組織と連携し、中小・地場組合の交渉を支援するとともに、回答内容などの情報共有をタイムリーに行う。加えて、成果を地場における賃金相場の底上げに波及させるため、効果的なアピールや情報提供を行う。

連合は、構成組織、地方連合会、単組との連携を強め、月例賃金引き上げの流れを継続させるべく、波及の強化をはかっていく。

2017 年 3 月 15 日
日本労働組合総連合会
中央闘争委員長
神津 里季生